

いつも大変お世話になり、ありがとうございます。

**台湾をめぐる情勢が緊迫しています。** 中国は、米国のペロシ下院議長が訪台したことに反発し、台湾を包囲するように、実弾を用いた軍事演習を6ヶ所で開始しました。ミサイルも台湾の上を飛翔させ、そのうち5発が我が国の排他的経済水域に落下しました。

今は一応落ち着いていますし、この件で戦争が起きることはないでしょう。しかし、**我が国として肝に銘じなければいけないのは、**

**1) 台湾有事の際、米国が介入することになれば、米軍基地を置く同盟国である日本も中国の標的にされるだろう。**

**2) 従って我が国としても、武力によって台湾の現状が無理やり変更されることは、国益の損失である。**

**3) また紛争に至らなくても、今回の軍事演習にみるように、中国は比較的簡単に、海軍力などで台湾を海上封鎖することができる。これによって、我が国への食料やエネルギーを運ぶ船舶なども止められる恐れがある。**

**ということです。**

**いくら嫌な話でも、現実を直視しなければなりません。** 我が国は海に守られて、長い歴史上、外国に侵略されたことは稀でした。ましてや外国に占領されたことは、先の大戦後を除いて一度もありません。

これ自体は国民にとっては喜ばしいことです。ただ、一方で、こうした外国からの脅威に対して反応が鈍くなっています。**国政の政治家は、何よりもこうした脅威を未然に防ぎ、平和を守ることが最大の仕事です。** 国家の安全保障は自治体や民間ではできません。

当然、内閣も国会も国防予算の増額をはじめ、それなりに覚醒しはじめていますが、さらに危機感を持たなければいけません。同時に、**どういう防衛体制が真に中国の野望を挫き、抑止力を発揮できるか、冷静沈着な対応が求められます。**

ただ予算の金額を倍増すれば済む話ではないはず。中国のミサイル攻撃を抑止するために、我が国も中距離ミサイルを配備して反撃力を備えなければいけません。そもそも日常の備品や弾薬が不足している自衛隊を組織として見直す必要もあります。具体的に、台湾有事の際に、米軍との役割分担などを決めて方針を固めなければなりません。

こうした課題が山積しています。国民と国土を守るために、これからも皆様とともに奮闘してまいります。